

令和3年度学校評価

前年度の重点目標	<p>ア 心身ともに健康で安全に学ぶことのできる学校づくりを進める。</p> <p>イ 令和4年度からの教育課程及びICT教育の円滑な実施に向けた準備を進める。</p> <p>ウ 地域から愛される学校づくりを更に進めるため、諸活動に新たな価値を付加するとともに情報発信を積極的に行う。</p> <p>エ 情報活用コースの一層の活性化を図るため、学校全体で諸活動の検討と改善を行う。</p> <p>オ 校務の効率化を図るため、様々な場面における連絡や資料配付の方法の改善を行う。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
式典・集会 行事・防災 (総務部)	式典・集会の円滑な運営を行う。	学年等と連携し、放送で式典・朝礼を行う際に、生徒が規律ある行動ができるように指導する。	式典や朝礼をすべて放送で実施したが、体育館で式典・集会を行っていた時と遜色なく厳粛な雰囲気で行うことが出来た。今後は双方向通信を用いて式典・集会を実施していく方法を模索していきたい。
	危機管理や防災についての意識の向上を図る。	避難訓練・地震防災訓練を通じて集団行動の重要性を生徒に認識させ、緊急時に対応できる体制を整える。	避難訓練・地震防災訓練を実施し、緊急事態に備える心構えを認識させることができた。今後も緊張感を持って行動できるよう日頃の訓練を丁寧に行いたい。
授業規律 図書館活動 (教務部)	授業開始時に授業環境を整える。	チャイムまでに授業の準備を完了し、あいさつ後、授業を受ける態勢になるよう指導する。	各教員が授業前に生徒に声をかけるなどの指導をすることで、授業規律を保つことができた。
	図書館を利用した企画を行い、図書館の来館者を増やし、貸し出し冊数の増加を図る。	掲示・配布物などを通じて、図書館の存在を生徒に認識させる。生徒が図書館へ気軽に足を運べるような雰囲気作りを図る。企画、展示などに情報活用コース・図書委員の活用を図る。	読書のほか、自習のために利用する生徒が増えた。図書委員の活動の充実をはかることができた。
	令和4年度からのICT教育の円滑な実施に向けた準備を進める。	授業改善担当などと連携を横断的にとり検討をおこなう。	研修・教育工学部との連携や、情報化推進委員会にて、準備を進めつつあるが、不確定要素も多く、今後も状況に応じた準備を進めたい。
遅刻数の減少 交通安全指導 ルール遵守の指導 (生徒指導部)	遅刻指数1.0未満にする。	8時35分遅刻の指導を実施し、生徒がより時間を意識して行動できるようにする。	遅刻に関しては年々減少傾向にある。特定の生徒が遅刻を繰り返しているため、粘り強く指導をしていく。
	登下校時の交通マナーの向上及び交通事故を防止する。	時間に余裕を持って登校するよう促していく。様々な教育活動を通じて、交通安全に関する指導を実施する。	登下校の交通マナーや交通安全に関して、朝礼での講話やPTAとの合同街頭補導など様々な場面を利用して、繰り返し指導をした。しかし、今年も交通事故や交通マナーなど課題を残した。
	規則を遵守する規範意識を養う。	校則や身だしなみ指導のルールをきちんと説明し、教員が生徒に様々な場面で指導していく。	年々生徒の規範意識は向上していると感じる。しかし、スマートフォンの利用については、問題行動が増加している。継続的に指導し、適切な行動選択ができるように指導していく。
キャリア教育 (進路指導部)	学習会の充実	1年次は早朝スモールテストを行い、基礎学力の定着を図る。2年次からは早朝も講義型の学習会を行い、大学受験に対応した応用力の充実を目指す。2年次から就職学習会を行う。	1年早朝スモールテストを実施し、基礎学力を定着できた。2年早朝と3年早朝・業後学習会は講義型で実施することができた。模試の過去問題や入試の過去問題、共通テスト対策の問題集等を扱い、それぞれの目標を達成するための力を身に付けられるよう尽力した。2年就職学習会では筆記試験対策に取り組み、基礎学力をつけることができた。3年就職学習会では筆記試験対策、面接対策を行いながら、就職後に求められる力の育成にも努めた。
	進学指導の充実	難化した大学入試に対応するため、推薦入試・一般入試を活用して進路実現を図る。	難化した大学入試に対応するため、学習会等で実力を育成し、進路実現を支援した。推薦入試を利用する生徒に向けては個別でそれぞれの受験校の特色に合わせた面接指導・小論文指導等を行い、総合的な力を身に付けることができた。
	就職指導の充実	1年次職場見学、2年次インターシップ、3年次5月職場見学(2社)、7月企業訪問に行かせる。また企業の方から講話をして頂くことにより多角的な視点から進路選択する材料を与える。	1年職場見学、3年5月職場見学は直前でコロナ禍により中止となってしまったが、3年生は7月に複数の企業への職場見学を実施することができた。また、1年生は企業の方による講話を3回(3社)、2年生は4回(9社)実施することができた。全学年に多面的な視野を持って進路選択するための材料を提供することができた。
	進路情報の発信の充実	生徒昇降口に掲示板とパンフレット配布場所を用意し、最新の進路情報を提供する。難化した大学入試の状況を保護者に説明する機会を複数設け、より良い進路選択の材料を提供する。	生徒昇降口に掲示板とパンフレット配布場所を用意したが、情報が乱雑にならないよう改善が必要であった。難化した大学入試の情報を保護者に説明する機会を複数設け、よりよい進路選択の材料を提供することができた。
保健管理 保健指導 環境美化 (保健部)	感染予防に関する指導を行い、予防可能な感染を防ぐ。	登校前の検温を徹底し、スタディサプリへ体温を入力させる。健康観察表を活用し担任による健康観察結果から生徒の症状を把握する。感染症予防に関する指導を行う。保健室利用についてのルールを守らせることにより感染拡大を防ぐ。	スタディサプリに37.5度以上で入力している生徒がいた場合は、担任を通して確認した。また、入力していない生徒については担任から指導してもらっている。同時に健康観察表も活用し健康管理に努めた。保健室利用者に対し、必要時には感染予防についての指導をすることも待機室を利用し密にならないようにした。状況に応じ適切に判断し対応していきたい。
	感染予防に留意しながら環境美化を保つ。	清掃箇所に応じて人数配分や方法を考慮し生徒に指示をする。清掃時、不特定多数が触れる箇所の消毒を行う。ゴミ箱は撤去する。	清掃箇所は密にならないよう人数配分するように連絡した。昨年度に引き続き、清掃時に不特定多数が触れる箇所の消毒を行っている。ワックスがけの日程が取れなかったが、必要な箇所については対応したい。
教科指導力の向上 (研修・教育工学部)	情報機器を活用した授業の充実	全教員が所持しているタブレット及びプロジェクタを活用した授業を参観・研修・個別実践を行うように努める。	今年度はChromebookの教員台数無償貸与やEdTech導入補助金によるICTを活用した授業の準備を積極的に実施した。また、外部講師を招いた活用法の研修などを実施したことで、一部の教員は積極的に授業で活用することができた。しかしながら、全生徒が端末を持っているわけではないこともあり、公開授業等の対外的にアピールすべき場面でさえ活用していない教員が過半数であった。物が充実しても教員自身による意識改革が進まなければ、個に寄り添う授業の展開は難しいので、今後の課題である。
	ICT教育実施に向けた環境整備	令和4年度に向けて、ネットワーク構成・ユーザ管理、情報漏洩防止策などについて調査研究を行う。	教育委員会の方針が定まらないため、どのような方向になるのかも対応できるように他の都道府県の動きを調査し、対処方法などを検討してきた。来年度より校務支援システムなどが大幅に変更されるが、セキュリティの面については公開されている情報が少なく、対策を立てづらいのが現状である。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
情報漏洩の防止 (研修・教育工学部)	校内ネットワークの用途別活用方法の周知徹底	授業・会議で使う機会・環境を切り分け、漏洩の可能性を削減する。	アクセス管理の点からノートパソコンとタブレットに業務を分けているが、タブレット内に保存される個人情報が変わらずに多い。情報機器が使えない教員でなく、情報管理ができない教員に対しての研修を検討していく。
学校行事・部活動 (特別活動部)	生徒の人間の成長に繋がる学校行事の企画と運営	生徒会役員が主体となり、行事を円滑に進められるように支援する。学校行事の時期の変更による行事の見直しや改善を行う。	コロナの影響で、行事が縮小されたり、時期や内容の変更があったりしたが、できる範囲で工夫し行事を行うことができた。生徒会役員も、変更された行事に前向きに取り組み進めることができた。来年度も行事の時期の変更があるが、内容を検討し、工夫しながら行っていきたい。
	部活の活性化	新1年生に対して、部活動への積極的な参加を促す。各部の顧問の意見・要望を聞き部活動を行う環境を整える。	新1年生に対しては、担任や顧問の声掛け・指導により、生徒の参加状況は良い。県大会へ出場した部活が複数あり、部活動の活性化に繋がった。部活動を行う環境については要整備があるが、可能などから整えていきたい。
生徒の心の安定 (教員相談部)	生徒の悩み等の情報把握と対応	出欠状況に留意し、不登校の傾向があれば学年主任に報告する。心のアンケート、面談を活用し、生徒の悩みなどの情報を把握する。相談連絡会を通して対応策を検討する。	相談連絡会の活用により、情報の共有や対応策を検討することで、生徒の心の安定を図ることができた。また、当該生徒が考査に臨む際に配慮すべき点や、その対処法について一定の基準を設けるなど、より効率的に対応できるよう改善した。
	心の不安定な生徒への対応とSC(スクールカウンセラー)との連携	SCの周知徹底をはかり、不登校の兆しがある生徒や心の不安定な生徒にSCのカウンセリングを勧め、生活改善や心の安定化を図る。	SCの活用は順調であるが、希望人数に対して配当時間が少ないため、対応に苦慮した。それでも、自分の気持ちを言葉にできなかったり、自身の気持ちがあかぬ生徒が多いため、継続的に相談ができるよう、今後も配当時間の活用を工夫したい。
	特別な支援を必要とする生徒の状況把握と対応の検討	本人や保護者からの申し出に加え、日常生活の様子などから、学習や生活に支障のないよう、合理的な配慮を図る。	特別な支援を必要とする生徒が多様化しており、それぞれに応じた支援を教員全員が承知している、という状態にまでは至らなかった。生徒が必要とする支援を把握し、学校運営の範囲内で行えることを確認し、その情報を共有していくことが今後も必要と思われる。
授業・学校生活への取組 (第1学年)	基本的な生活習慣を確立する。	規則正しい生活をさせる。時間を守る。挨拶をする。正しい身だしなみを理解させる。	1年間を通して身だしなみについてしっかりと指導ができた。ごく一部の生徒で慣れが出てきて、服装の乱れも見られるが、全体としてはできてきている。特に女子の化粧や髪色については継続指導をしっかりとしていきたい。
	学習環境を整え、毎日の授業に集中して取り組む。	毎日の授業を大切にさせる。授業に臨む姿勢を整えさせる。教室環境を整え、学習に集中できるようにする。家庭での学習習慣をつけさせる。課題や提出物を期限内の提出することを守らせる。	学期中だけでなく長期休業中もスタディサブリのアンケートを活用した学習時間調査を実施するなど、学習習慣を身につけさせるようにした。課題提出についての指導も、未提出者へ個別で声がけをするなど継続的に行った。しかし、少数ではあるが学習意欲が低い生徒に対して今後も継続した指導が必要である。
	安城南高生としての自覚を持つ	高校生になった自覚を持たせる。部活動や学校行事に積極的に取り組ませる。学校生活に目標を持たせる。	全体としては部活動の参加状況は良好であるが、少しずつ活動していない生徒や退部した生徒が増えている。学校行事については体育大会や文化発表会では積極的に活動する生徒が多かった。
授業等、学校生活への取組 (第2学年)	落ち着いた学校生活を送ることのできる環境を整える。	新入生の手本になるよう、正しく制服を着用させる。	全体として大きな崩れはなかった。男子生徒の第一ボタン外しや女子生徒のスカート丈短めが散見された。継続的な声掛けが必要である。
		規律ある授業を行い、学習活動を質・量の両面で向上させる。	落ち着いた授業を行うことができた。量をこなさきれない生徒も一部見られ、質を高めるには生徒が積極的に活動できる場面設定をする必要がある。
		学習環境を整えるため、教室の整備を行う。	日々の清掃の取り組み状況は良好であり、教室環境は整えられている。今後、清掃全身体制への移行も検討する余地がある。
	生徒の良好な人間関係の構築を目指す。	日常生活でのあいさつの励行、授業や学校行事でのグループ活動を通して、コミュニケーション能力を向上させ、良好な人間関係を構築する。	あいさつが自らできる生徒は少ない。グループ活動が制限される時期もあり、コミュニケーションがうまく図れない場合もあったが、限られた学校行事の中で人間関係の幅を広げることができた。行事を通じて、良好な人間関係が築けるように指導していくことが大切である。
授業等、学校生活への取組 (第3学年)	落ち着いた学校生活を送るとともに、希望進路を決断し、その実現に向けて実践できる環境を整える。	日常生活において環境整備を心がけ、授業規律を遵守し、学力の向上を図らせる。	指導に従って授業規律を守り、学力を向上させることができた。やや受け身で意欲的に学ぼうという姿勢に欠けるため、今後の課題とする。
		進路実現のためには、身だしなみを含めた基本的な生活習慣を整えることが大切だと理解させる。	進路実現に向けて、正しい身だしなみを意識させることができた。しかし、一部の生徒は進路が決定した後は日常生活において服装の乱れが見られたため、身だしなみを整えることは卒業後も重要であることを指導したい。
		これまでの学びをもとに、自己の進路について現実的に考えさせ、自分で決められるように、探究させる機会を設ける。	総合的な探求の時間を通じて、志望理由や自己PRに取り組み、進路別ガイダンスや学習会を開催した。その結果、大体の生徒が自己の進路を具体的に考え、決定することができた。
総合評価	ア 保健部、生徒指導部、教育相談部を中心にそれぞれの観点から、心身ともに健康で安全な学校づくりを進めることができた。 イ 研修・教育工学部のリーダーシップのもと、ICT活用授業の準備が進んだ。一部の教員は積極的に活用している。次年度はそういった教員を増やしていく。 ウ 中学校訪問や中学生向けの案内誌など前年度のものを踏襲することができた。今後は内容や頻度をよりニーズに合ったものにしていく。 エ 高大連携授業や小学生との交流授業などの行事をより良いものにするのができた。しかしながら情報科の教員だけでなく学校全体で運営していくようにすることが課題である。 オ 次年度から職員朝礼の伝達をタブレットを用いて実験的に行うことに決定した。会議の効率化に向けた教員の意識改革が必要である。		